

## 環境調整と自主性を重視した取組

### 不登校児童の状況

対象児童は、感染症による体調不良が長引いたことから気力、体力が低下し、登校できなくなった。関係諸機関の働きかけもあり、体力の回復が見られ、登校を再開することにしたが、集団の中で終日過ごすことに本人・家族の不安があり、校内別室を利用することにした。

### 具体的な取組

#### ○環境整備

日当たりのよい静かな教室を使用した。座卓・椅子など複数の形態を用意したり、カードゲーム・絵本・色鉛筆等の遊び道具を用意したりして環境整備を行った。当該児童が作製した工作作品や絵を掲示して和やかな雰囲気の中で過ごせるように工夫している。



#### ○児童の意思を尊重

校内別室への登校後、その日の活動を自分で決め、時間割に書くようにした。必要に応じて、支援員が活動内容の選択を支援した。当該児童が、学年を遡って学習に取り組むことができるように、各種の教材を用意した。一人1台端末の使用は、支援員がタイムキーパーとなり、時間を決めて使用するようにした。

#### ○個別スペースの確保

全体スペースの背面に個別スペースを設け、当該児童が集中して学習したいとき、一人になりたいときに利用できるようにした。

パーティションで区切ることで柔軟な使用をできるようにした。



#### ○家庭・校内の連携

その日の活動や様子を連絡カードに書き、当該児童経由で保護者に渡している。学校保管用に記録も残し、担任・管理職との情報共有に役立てている。



### 成果

登校再開当初は校内別室で過ごす時間が長かったが、徐々に教室にいる時間が増え、授業に参加できるようになった。疲れを感じたときに休める場所があるということも、当該児童にとっての安心材料になっているようである。

### 課題

受容的に接するか、挑戦を励ますかの見極めが難しい。担任・支援員・管理職・特別支援教育コーディネーターで協議を重ねていく。